

# 第 26 回 造血器腫瘍研究会プログラム



**会 期 : 2022 年 1 月 21 日 (金) ・ 22 日 (土)**

**会 場 : WEB 上**

**世話人 : 東北大学大学院医学系研究科 清水律子**

事務局

第 26 回 造血器腫瘍研究会事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2 - 1

東北大学大学院医学系研究科 分子血液学分野

E-mail : hematopoietic.tumor@gmail.com

## 開催形態と参加方法

本研究会は、コロナウィルス感染蔓延のため WEB 開催となりました。

リモート会議（Zoom）にて開催いたします。

論文未発表データを発表していただくため、原則としてクローズドで行います。

### **\* 守秘義務の遵守をお願い致します（録音・録画・撮影等は禁止です）**

事前登録いただいた際に登録いただいたメインメールアドレスへ 1月20日17:00 までに URL をお送りします。会議 URL は、2 日間とも共通です。

ミーティングルームは、1月 21日（金）12:30、22 日（土）8 : 30 にオープンします。

**フルネーム・所属機関**での入室をお願い致します。（例：清水律子・東北大）

参加者は、ビデオ・マイク共に OFF にしてご参加ください。

質問はチャットにて受け付けます。質問内容を記入してください。挙手機能は使用致しません。（例：「〇〇〇〇について質問」など短く記入、または 質問内容を記入）

発表後に座長がチャットを確認し、質問者を指名、または 代読し発表者へ回答を依頼。

質問者はビデオ・マイクを ON にしてご発言ください。また、ご発言終了後はビデオ・マイクを OFF にしてください。

## 発表時間

発表時間は 12 分、質疑は 3 分です。

発表中の時間経過は「タイムキーパー」アカウントに、スポットライト設定で表示しております。もし時間表示が確認できない際は確認できるように画面設定してください。

10 分に 1 回、12 分（発表終了時）に 2 回、15 分（質疑応答終了時）に 3 回それぞれベルが鳴る設定になっておりますが、発表者の音声と重なると聞こえない場合もございますのでご注意ください。

前の演者の質疑応答が終了しましたら、ビデオ・マイク共に ON にしていただき、発表スライドの画面共有を行ってください。

発表、質疑応答が終了後は速やかに画面共有を解除してください。

## プログラム一覧

1月21日(金)

- 12:55～13:00 開会の挨拶
- 13:00～14:05 造血制御
- 14:05～15:10 リンパ腫・リンパ球
- 15:10～15:30 休憩
- 15:30～16:20 CML・MPN
- 16:20～17:25 MDS
- 17:25～18:00 特別講演

1月22日(土)

- 09:00～09:50 薬剤耐性・シグナル
- 09:50～11:10 AML<sup>Ⓐ</sup>
- 11:10～11:30 休憩
- 11:30～12:50 AML<sup>Ⓑ</sup>
- 12:50～13:00 次期世話人の挨拶、閉会の挨拶

## 【1日目】

### ■ 12:55 ~13:00 開会の挨拶 清水 律子

### ■ 13:00~14:05 造血制御（座長：岩間 厚志）

#### 1. 変異タンパク質による GATA2 の機能障害が惹起する免疫細胞産生異常

長谷川敦史（はせがわあつし）<sup>1</sup>、保坂優奈<sup>1</sup>、山本雅之<sup>2</sup>、清水律子<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>東北大学医学系研究科 分子血液学分野、<sup>2</sup>東北大学医学系研究科 医化学分野）

#### 2. 単核貪食細胞分化における Irf8 エンハンサー群の動的制御機構の解析

西村耕太郎（にしむらこうたろう）<sup>1</sup>、西山晃<sup>1</sup>、山崎貴弥<sup>1</sup>、田村智彦<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>横浜市立大学 免疫学教室）

#### 3. 変異胚性幹細胞株のスクリーニングにより同定した血球分化に重要な新規遺伝子の解析

中井りつこ（なかいりつこ）<sup>1</sup>、横田貴史<sup>1</sup>、数藤孝雄<sup>1</sup>、徳永正浩<sup>1,2</sup>、竹田潤二<sup>3</sup>、保仙直毅<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学、<sup>2</sup>市立吹田市民病院 血液内科、<sup>3</sup>大阪大学 微生物病研究所）

#### 4. トリソミー 8 造血幹細胞の形質転換の分子基盤解析

白潔（Bai Jie ばいじえ）<sup>1</sup>、荒木喜美<sup>1</sup>、久保田翔<sup>1</sup>、横溝貴子<sup>1</sup>、小川峰太郎<sup>1</sup>、宇野愛海<sup>2</sup>、香月康宏<sup>3</sup>、押村光雄<sup>3</sup>、指田吾郎<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>熊本大学、<sup>2</sup>東京薬科大学、<sup>3</sup>鳥取大学）

### ■ 14:05~15:10 リンパ腫・リンパ球（座長：原田 浩徳）

#### 5. EBV 関連リンパ腫形成における sPLA<sub>2</sub>発現と細胞外小胞の膜リン脂質修飾

工藤海（くどうかい）<sup>1</sup>、三木寿美<sup>2</sup>、村上誠<sup>2</sup>、幸谷愛<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>東海大学 先端医療科学、<sup>2</sup>東京大学）

#### 6. アグレッシブ NK 細胞白血病における肝臓微小環境の役割

亀田和明（かめだかずあき）<sup>1</sup>、幸谷愛<sup>2</sup>

（<sup>1</sup>東海大学医学部基盤診療学系先端医療科学、<sup>2</sup>東海大学）

7. クローン造血由来胚中心 B 細胞は T 細胞リンパ腫の腫瘍化に寄与する

藤澤学（ふじさわまなぶ）<sup>1</sup>、Tran B. Nguyen<sup>1</sup>、安部佳亮<sup>1</sup>、末原泰人<sup>1</sup>、須摩桜子<sup>1</sup>、三浦史仁<sup>2</sup>、伊藤隆司<sup>2</sup>、鈴木絢子<sup>3</sup>、鈴木穰<sup>3</sup>、末永孝生<sup>4</sup>、千葉滋<sup>1</sup>、坂田（柳元）麻実子<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>筑波大学医学医療系 血液内科、<sup>2</sup>九州大学大学院医学研究院 医化学分野、<sup>3</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科、<sup>4</sup>亀田総合病院 血液腫瘍内科）

8. シングルセル解析による T 濾胞ヘルパー細胞リンパ腫の免疫プロファイルおよび腫瘍細胞不均一性の解明

須摩 桜子（すまさくらこ）<sup>1</sup>、藤澤学<sup>1</sup>、安部圭亮<sup>1</sup>、末原泰人<sup>1</sup>、日下部学<sup>1</sup>、梶大介<sup>2</sup>、杉尾健志<sup>3</sup>、加藤光次<sup>3</sup>、赤司浩一<sup>3</sup>、末永孝生<sup>4</sup>、中村直哉<sup>5</sup>、鈴木絢子<sup>6</sup>、鈴木穰<sup>6</sup>、千葉滋<sup>1</sup>、坂田（柳元）麻実子<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>筑波大学血液内科、<sup>2</sup>虎の門病院、<sup>3</sup>九州大学、<sup>4</sup>亀田総合病院、<sup>5</sup>東海大学、<sup>6</sup>東京大学）

■ 15:10~15:30 休憩

■ 15:30~16:15 CML、MPN（座長：稲葉 俊哉）

9. The RNA binding protein Nucleolin is essential for stem cell maintenance in myeloid leukemia

服部鮎奈（はっとりあゆな）<sup>1</sup>、伊藤貴浩<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>京都大学）

10. DBHS ファミリータンパク質による白血病の維持

山本佳輝（やまもとよしき）<sup>1</sup>、伊藤貴浩<sup>1</sup>、服部鮎奈<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>京都大学ウイルス・再生医科学研究所）

11. eIF4B は CAMK2G の標的であり、骨髄線維症の進展に寄与する

佐々木謙（ささきけん）<sup>1</sup>、小川覚之<sup>2</sup>、正本庸介<sup>1</sup>、水野秀明<sup>1</sup>、黒川峰夫<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>東京大学医学部附属病院血液腫瘍内科、<sup>2</sup>獨協大学）

■ 16:15~17:20 MDS (座長 : 幸谷 愛)

12. CRISPR-Cas9 スクリーニングによるメチル化阻害剤抵抗性に関わる遺伝子の探索

海渡智史 (かいとさとし)<sup>1</sup>、中島やえ子<sup>1</sup>、大島基彦<sup>1</sup>、岩間厚志<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学医科学研究所 幹細胞分子医学分野)

13. HMGA2 高発現 MDS クローンによる NETosis を介した器質化肺炎発症機序

松沼菜摘 (まつぬまなつみ)<sup>1</sup>、林嘉宏<sup>1</sup>、青柳泰成<sup>1</sup>、原田結花<sup>2</sup>、原田浩徳<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東京薬科大学 生命科学部 腫瘍医科学研究室、<sup>2</sup> がん・感染症センター都立駒込病院)

14. Samd9/9L 症候群における 7q-/MDS 多発メカニズムの基礎検討

長町安希子 (ながまちあきこ)<sup>1</sup>、金井昭教<sup>2</sup>、平川真弓<sup>3</sup>、伊川友活<sup>3</sup>、神力悟<sup>4</sup>、松井啓隆<sup>4</sup>、稲葉俊哉<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 広島大学原爆放射線医科学研究所、<sup>2</sup> 東京大学、<sup>3</sup> 東京理科大学、<sup>4</sup> 熊本大学)

15. 過剰なミトコンドリア断片化に伴う炎症性シグナル経路の活性化が MDS 病態発症の引き金となる

林嘉宏 (はやしよしひろ)<sup>1</sup>、青柳泰成<sup>1</sup>、松沼菜摘<sup>1</sup>、貞任大地<sup>1</sup>、原田結花<sup>2</sup>、原田浩徳<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東京薬科大学 生命科学部 腫瘍医科学研究室、<sup>2</sup> がん・感染症センター都立駒込病院)

■ 17:20~17:55 特別講演 (座長 : 清水 律子)

東北大学大学院医学系研究科・教授、東北メディカルメガバンク機構・機構長 山本雅之

GATA 転写因子群と赤血球分化

(GATA Transcription Factors and Erythroid Differentiation)

## 【2日目】

### ■09:00～09:50 薬剤耐性、シグナル・代謝・治療（座長：指田 吾郎）

16. mTOR 複合体による白血病の治療耐性制御機構の解明

上野将也（うえのまさや）<sup>1</sup>、平尾敦<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>金沢大学 がん進展制御研究所 遺伝子・染色体構築研究分野）

17. 成人 T 細胞白血病／リンパ腫に対する DNA 脱メチル化剤と EZH 阻害剤の併用効果と  
その標的因子 DUSP5 の機能解析

倉橋祐樹（くらはしゆうき）<sup>1</sup>、吉田奈央<sup>1</sup>、嬉野博志<sup>2</sup>、蒲池和晴<sup>2</sup>、山本雄大<sup>1</sup>、渡邊達郎<sup>1</sup>、中村秀明<sup>1</sup>、末岡榮三朗<sup>1</sup>、木村晋也<sup>2</sup>

（<sup>1</sup>佐賀大学医学部 創薬科学共同研究講座、<sup>2</sup>佐賀大学医学部 創薬科学共同研究講座 血液・呼吸器・腫瘍内科）

18. □演題発表キャンセル

### ■09:50～11:10 AML<sup>Ⓐ</sup>（座長：松井 啓隆）

19. 有糸分裂制御は急性骨髄性白血病における DNA 脱メチル化薬の主要な耐性機構である  
藪下知宏（やぶしたともひろ）<sup>1</sup>、中西真<sup>2</sup>、北村俊雄<sup>2</sup>、合山進<sup>2</sup>

（<sup>1</sup>東京大学医科学研究所細胞療法部、<sup>2</sup>東京大学、）

20. AML に対する経口 DNA 脱メチル化剤 OR-2100 と venetoclax の併用効果

蒲池和晴（かまちかずはる）<sup>1,2</sup>、嬉野博志<sup>2</sup>、川副和紀<sup>2</sup>、倉橋佑紀<sup>2</sup>、山本雄大<sup>1</sup>、渡邊達郎<sup>2</sup>、木村晋也<sup>2</sup>

（<sup>1</sup>佐賀大学医学部 創薬科学共同研究講座、<sup>2</sup>佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科）

21. Nucleophosmin (NPM) 変異による急性骨髄性白血病の発症機構

相川祐規子（あいかわゆきこ）<sup>1</sup>、北林一生<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>国立がん研究センター）

## 22. Disruption of the PR-DUB complex attenuates myeloid leukemogenesis

竹田玲奈（たけだれいな）<sup>1</sup>、浅田修平<sup>1,2</sup>、合山進<sup>3</sup>、北村俊雄<sup>4</sup>

（<sup>1</sup>東京大学医科学研究所細胞療法分野、<sup>2</sup>東京女子医科大学実験動物研究所、<sup>3</sup>東京大学先進分子腫瘍学分野、<sup>4</sup>東京大学医科学研究所細胞療法分野）

## 23. AML の発症と悪性化における E3 ユビキチンリガーゼ Cop1 の役割

角南義孝（すなみよしとか）<sup>1</sup>、芳野聖子<sup>2</sup>、中村卓郎<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>公益財団がん研究会がん研究所、<sup>2</sup>名古屋大学）

### ■ 11:10～11:30 休憩

### ■ 11:30～12:50 AML®（座長：木村 晋也）

## 24. GATA1 発現異常による AML 発症マウスモデルの白血病発症機序の解析

平野育生（ひらのいくお）<sup>1</sup>、Jia Yao<sup>1</sup>、成澤志保<sup>1</sup>、清水律子<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>東北大学医学系研究科 分子血液学分野）

## 25. MLL fusion 複合体による白血病化の分子機序

横山明彦（よこやまあきひこ）<sup>1</sup>、高橋慧<sup>1</sup>、宮本亮<sup>1</sup>、金井昭教<sup>2</sup>、奥田博史<sup>1</sup>、小俣洋介<sup>1</sup>、川村猛<sup>2</sup>、松井啓隆<sup>3</sup>、稲葉俊哉<sup>4</sup>、高折晃史<sup>5</sup>

（<sup>1</sup>国立がん研究センター・鶴岡連携研究拠点、<sup>2</sup>東京大学、<sup>3</sup>熊本大学、<sup>4</sup>広島大学、<sup>5</sup>京都大学）

## 26. RNA 結合タンパク質による MLL-AF4 の翻訳阻害メカニズム

奥田博史（おくだひろし）<sup>1,2</sup>、宮本亮<sup>1</sup>、高橋慧<sup>1</sup>、市川珠理<sup>2</sup>、原田生起<sup>2</sup>、田村智彦<sup>2</sup>、横山明彦<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>国立がん研究センター鶴岡連携拠点、<sup>2</sup>横浜市立大学大学院医学研究科 免疫学、<sup>3</sup>横浜市立大学 先端医科学研究センター）



27. DDX41 変異による造血器腫瘍の発症メカニズム

松井啓隆（まついひろたか）<sup>1</sup>、神力悟<sup>1</sup>、平山真弓<sup>1</sup>、長町安希子<sup>2</sup>、横山明彦<sup>3</sup>、金井昭教<sup>4</sup>、稲葉俊哉<sup>5</sup>

（<sup>1</sup>熊本大学 臨床病態解析学講座、<sup>2</sup>広島大学、<sup>3</sup>国立がん研究センター鶴岡連携拠点、<sup>4</sup>東京大学、<sup>5</sup>広島大学）

28. GATA2 エンハンサーの移動がもたらす EVI1 発現異常と白血病

鈴木未来子（すずきみきこ）<sup>1</sup>、山本雅之<sup>2</sup>

（<sup>1</sup>東北大学大学院医学系研究科 ラジオアイソトープセンター、<sup>2</sup>東北大学大学院医学系研究科 医化学分野）

■ 12:50～12:55 次期世話人の挨拶

■ 12:55～13:00 閉会の挨拶 北林 一生